

# 年頭のあいさつ ふるさとの輝かしい 未来に向けて



庄原市長  
滝口 季彦

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。また、平素からの市政運営に対するご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

## 人と地域が輝くまちづくり

**昨**年は、記録的な豪雪、豪雨により全域において甚大な被害を受けました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞い申し上げます。本年が平安で幸せ多き年となりますよう心から願うものでございます。

さて、わが国の経済状況は、かつての「いざなぎ景気」を上回る戦後最長の好景気と言われていますが、庄原市においては景気の好転を実感することができず、低迷する

盤の整備、小型除雪機の配備をはじめとする自治振興区の支援、保育所施設の整備、加えて中国横断自動車道「尾道松江線」の着手など、庄原市の輝かしい未来とふるさととの夢の実現に向かって、構想から本格的な実践への年と位置付け、多くの市民の皆さんの参画をいただきながら、ふるさとの発展に向けた取り組みを推進してまいりました。

合併後の本市の財政状況は、かつて経験したことのない危機的な状況にあり、自治体としての生き残りをかけた行財政運営を余儀なくされております。しかしながら、苦しいときこそ知恵を出し合い、お互いが汗をながして「夢」や「希望」が共感できる魅力ある庄原市を築き上げなければなりません。

行財政の改革を着実に推進しながら、本年度策定しました本市のまちづくり、地域づくり10カ年の指針となる「庄原市長期総合計画」、基幹産業である農林業の再興、豊かな自然や資源を継承・活用した経済への転換を図る「みどりの環」経済戦略ビジョンな



庄原市議会 議長  
谷口 琢磨

新春を迎え、庄原市議会を代表し、新年のあいさつを申し上げます。市民の皆様には、日頃の議会活動に格別なご理解とご協力いただきありがとうございます。昨年は参考人招致、委員会の管内視察等に関しましては、市民の皆様のご協力と真摯なご指導に改めてお礼を申し上げます。

## 他を模倣せず、地域を温める

**未**曾有の財政危機の中、平成19年が始まりました。市民の理解を得るため、行政自身が痛みを負う決意を示せば非難は避けられるかもしれませんが、どんな努力も的外れでは意味がなくなりません。

財政危機より怖いのは、それを理由に考えることを放棄することであり、大切なのは、これから何をしなければならぬか、を明確にすることだと思えます。

してはなりません。安い物を大量に消費する人ではなく、少量でも上質な物を大切にする生活者をパートナーとし、求められているものは何かを知った上で、「農」を通じて社会を善くしていくという視点を行政と生産者が共有することが必要と考えます。庄原市が進める生鮮野菜等の販売事業への出品者が増えています。農産物の価格を生産者自身が決め販売状況を確認できるしくみは、商品のレベルアップと事業主としての意識の醸成につながっており、「生産者にとって農産物は作品。喜ばれるものを作りたい。」という声を耳にします。行政は、生産者が自立した自由な農業者となるよう支援していかなければならないと思います。私たちは先進地の成功例に学ぼうとしますが、ここは北海道でも沖縄でもなく、近くに文化遺産もない庄原市です。穏やかな里山の懐に生きる私たちに、その気候風土によって育まれた文化があり、農業があり、それに見合った観光の姿があるはず。安易に他を模倣し、一部分だけを切り取って当てはめようとするのは危険だと思えます。農業がしっかりとこそ観光にも本物の価値が

あるとする極めて健全な考えを持ち続けることが肝要です。来訪者に感動を与える観光事業を目指すなら、私たちが受け継いできた濃やかな手仕事や丁寧な暮らしが息づく地域を温めることにこそ意味があると思えます。

中央に公正な政治が機能していない今日、地方の自立という名の地方と農業の切り捨ては当分の間続くでしょう。では農業を捨て異なる生き方を選ぶのかと言えは応えは否です。「農」は私たちにあって、産業である前に生活文化の根幹を成すもので、その喪失は社会形態を変え地域に暮らす意味さえ失わせると予感するからです。

自治振興区が、地域を支える小さな役所として機能するに至るには、多くの努力が必要ですが、真の住民自治を確立するためには、時間をかけても成し遂げなければなりません。財政の困窮を理由に、地域の自立という名のもと、周辺を切り捨てたのでは国政と同じ過ちを犯すことになりません。苦難の時代だからこそ、庄原市行政が地方自治の王道を歩むよう、議会の役割を果たすことをお約束して新年のあいさつとします。